

2012年度平和文化研究所 研究プロジェクト

共同研究『学生教育の基盤としての世界遺産学——世界遺産を通じた異文化理解の可能性をめぐる研究』

2012年3月31日

申請者 新歴史文化学科教員 7名

杉山恵子（報告者）、岩村太郎、笹尾典代、高濱俊幸、伊藤拓真

川戸れい子、荒又美陽

本研究プロジェクトは2013年度の大学改革にむけて、新歴史文化学科の担当者の共通項として世界遺産をテーマに掲げ、学生教育に取り入れる基盤づくりをめざしたものである。

すでに現文化学科の担当教員で2011年度進めていた恵泉女学園大学ホームページにおける「世界遺産ブログ」を発展させ、新旧学科の連携をはかるとともに、歴史文化学科の特徴ある教育として導入した「世界遺産学」についての理解を深め、恵泉女学園大学らしい学生教育のあり方をめざした。

研究会、講演会の開催、印刷物 歴史文化学科編 『世界遺産——歴史と文化の学び方』の作成などがその主な成果である。講演会においては、本学学生・来年度入学予定学生のみならず、学外からの社会人参加者による質疑応答もかわされ、本学への理解、歴史文化学科への取り組みに学外からも理解が得られたことを付け加えたい。印刷物の高校への配布を通じた歴史文化学科の学びへの理解もまた、この研究プロジェクトの成果の一つである。

学内においては担当教員だけではなく、学科を越えた投稿協力のもと、学科横断型のプロジェクトに発展したことも、大学改革の中で教員がお互いを知り、信頼し、協力する体制を作り上げた本プロジェクトの成果である。担当教員による世界遺産の個別研究、さらに本研究プロジェクトの主旨である授業への応用など、日々教員の取り組みが続いている。助成金によるこのような成果に担当者一同感謝し、今後も真摯に本年度の成果をいかし、学生教育においてこのプロジェクトを継続していく所存である。

ご執筆を担当いただいた他学部、他学科の先生がた、講演会の実現にご奔走いただいた教職員の方々にこの場を借りて感謝したい。

本年度の助成金の具体的な使用目的（講師招聘、冊子作成）、活動報告は以下のとおりである。

## 連続講座『歴史に学び、未来を創る』の開催

1972年の「世界遺産条約」に基づき、1978年から登録が開始されたユネスコの世界遺産は、現在締約国188、登録数936にのぼる(本プロジェクト申請時)。壮大な遺産をどのような切り口で異文化理解にむけてすすめるか、グローバルな時代の平和の担い手を送り出すことを掲げる本学の教育理念にてらしながら、歴史文化学科の新科目、学科の特徴である文化現地研修との連携を鑑み、研究会を重ねた結果、専門研究者を招聘しての連続講義を下記のスケジュールで実施した。

実施にあたっては、キリスト教文化研究所企画のシンポジウム『東アジアキリスト教交流の未来への展望』(連続講座第二回目)との共同開催というかたちですすめられた。歴史文化学科設立記念連続講演としての位置づけを頂戴し、全学的なプロジェクトに発展したこともここにご報告し、キリスト教文化研究所のご協力に感謝したい。

### 連続講座「歴史に学び、未来を創る」(別添 連続講義宣伝ちらし)

7月11日 17:00-18:30

第一回 『古代ローマ末期の宗教・葬送と美術』 東京大学グローバル地域研究機構 特任研究員 奈良澤由美氏 (本学非常勤講師)

11月11日 13:00-14:30

第三回 『世界遺産と宗教建築——人類の歴史文化交流の旅』 世界遺産アカデミー主任研究員 目黒正武氏

12月16日 14:00-15:30

第四回 『世界遺産学の可能性』 筑波大学大学院人間総合科学研究科・世界文化遺産学専攻准教授 岡橋純子氏 (講演依頼当時本学非常勤講師予定者)

(それぞれ、恵泉女学園大学ホームページ 歴史文化学科 「イベントの記録」ブログに詳細・具体的な報告が各講演準備担当者より掲載済み。乞うご参照)

イタリア現地研修を前に開かれた第一回講義では古代ローマの多様性を宗教から見渡すなかで東方に由来する宗教の存在など、映像資料とともに、時間と空間を超えた理解を参加者に促す講義がなされた。

恵泉祭と同時開催された第三回目は学外からの参加者も多く、世界の宗教建築を比較するところから始まった講演は、ここでも時代と地域を越えて「通底」する人類の遺産に目を向ける果敢な挑戦が呼びかけられた。

世界遺産の文化・総合遺産の多くが宗教遺産・建築であることもあるが、これら二回の講座は第二回目の講座とも連携し、本学のキリスト教理解とその使命、その発信を知らしめる講座としても位置づけられるものとなった。学長からも開会のご挨拶を賜ったものである。

第四回は視点を変えて世界遺産登録の実務から、「世界遺産学」の実学の側面がわかりやすく解説され、世界遺産への新しい視点、かかわりかたへの糸口があたえられるものであった。参加学生にとっては「世界遺産学」とはなんだろう、もっとしりたい、という興味が来年度から開講される歴史文化学科の講義科目にも引き継がれることになった。

なお、第三回、第四回の講座は教務課と連携した、前半入試の合格者を対象とした入学前講座としても位置づけられ、参加者には教員による特別指導が講演後になされた。また歴史文化学科が推す、『世界遺産検定』、『宗教文化士』など資格にもつながる紹介が、事前にキャリアセンターのご協力を得て学生になされたこともご報告したい。

何れの講演も世界遺産の学習を奨励する歴史文化学科の学びの多様性と連動し、それぞれご専門の立場から、造詣の深いご研究の成果をうかがいながらも、あくまで学生を対象としたわかりやすい解説がなされ、文化の相互理解のための多くの切り口に言及がなされた。今後の学生の取り組みにとって刺激になるものであった。お忙しい中、本学のためにご来校していただき、熱意あるご講演の機会を頂戴できたことに感謝し、参加者一同にとって意義深いものとなったことをご報告したい。本プロジェクトへの支援がなければ実現しなかったことであり、厚く感謝したい。(参加者のアンケート 参照可)

## ② 冊子 恵泉女学園大学歴史文化学科編 『歴史と文化の学び方』作成 別添資料

高濱俊幸、荒又美陽、伊藤拓真を編集委員に500部の冊子作成となった本プロジェクトの成果である。

プロジェクト担当者7名に加えて現文化学科教員(西村悟郎、李省展、杉山圭以子、田中靖彦)現日本語・日本文化学科教員(梅澤ふみ子)、現国際社会学科教員(上村英明)の執筆協力を得て、五大陸三十の世界遺産をとりあげ、教員独自の切り口で解説したものである。写真、絵画、図などの映像資料、コラム、クイズなどを通して授業と連携する工夫がなされている。ウェブ上でのインターアクティブな展開や、参考文献による学生の自習も

推奨されている。文化学科の現地研修と連携したものなど、恵泉独自の展開になっているものも多い。学生教育の基盤作りにむけての各教員の取り組みの成果としてここにご報告したい。冊子を別添でつけさせていただいたので、参照していただきたい。

冊子のもととなった世界遺産ブログは今も継続して、恵泉の教員ならではの解説が続けられている。（恵泉女学園大学ホームページ 「世界遺産ブログ」）それぞれの教員の取り組みであるブログを参照いただくことで「未発表の研究成果報告書」部分に換えさせていただきたい。新学科の周知、学生募集において、出版を早めなければならなかった点をご理解いただくとともに、学生教育への取り組みの成果は、それぞれが自身の専門分野を駆使して解説しながらも、分野と地域を越えた学びへと学生を誘っている工夫の数々にあり、ブログで見えていただくのが一番であろう。

世界遺産という壮大な人類の遺産を対象に、人文諸学を担うものが、それぞれの専門分野と地域、さらにそれらを超えて、文化の相互理解をめざす本プロジェクトは、今後も担当教員の日々の努力のなかで、それぞれ学生教育にいかすべきものとの決意を新たにし、本年度の成果として報告を終えたい。今後も恵泉女学園大学の平和教育、異文化理解教育の根幹に据えられるプロジェクトとして、教員の連携と日々の研鑽を象徴するプロジェクトとして、さらなる成果をめざして申請者一同研究を続ける所存である。今後もこうした歴史文化学科の取り組みにご理解を賜りたく、感謝とともに今後のご支援を御願いたい。

以上

平和文化研究所御中

申請者一同

文責 文化学科2012年度学科主任 杉山恵子

## **World Heritage Studies: A Vital Key to Students' Understanding of Other Cultures**

This is an interdisciplinary project designed and carried out by members of new Department of History and Culture in 2012.

One part of the project was presenting a series of lectures to the public. These lectures were:

July 11, 2012

Religion of Ancient Rome: Art and Funeral Procession by Yumi Narasawa

November 11, 2012

World Heritage and Religious Architecture by Masatake Meguro

December 16, 2012

The Possibilities of World Heritage Studies: Cross Cultural Exchanges by Jyunko Okazaki

They were well received and provided the excellent introduction to the focus of newly organized Department of History and Culture.

The second part of the project was writing and distributing the booklet, *World Heritage: How to Learn History and Culture*, to prospective students.

We hope to continue this project to help build students acquire a wider perspective for their understanding of other cultures.

(K. Sugiyama)